

高 館 千枝子 先生

盛夏の候、先生におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。

大変ご無沙汰いたしておりました。この度は「唐丹小中学校復興の歩み」DVDをありがとうございます。

震災後、学校再開と教育環境づくりに奔走していた時に先生が訪ねてこられたことを昨日のここのように思い出します。唐丹（大石）の教え子さんのご縁で、唐丹の子ども達のご支援を賜りましたこと、改めて心より敬意を表すると共に、深く感謝いたします。

お陰様で、唐丹の子ども達が『夢』を失うこと無く進路を選択し前に進むことが出来ました。当時、私や教職員は子ども達に寄り添い教育活動を推進することに全身全霊を傾けておりました。弱音や不満は一切口にせず子ども達の幸せを第一に考え実践する教職員は、私の誇りでした。反面、そのために配慮を欠く対応が多々あったことと察します。

唐丹を離れてからの方があの日の夢を見ます。時に夜

中に飛び起きたこともあり、現在も同じ状況です。心から離れることなどあり得ないと思います。

未曾有の事態を実体験しましたが、人間の強さと誇り、世界中の優しさを知ることが出来ました。そして震災から1年たった頃、唐丹の子ども達が『支援される人から支援する人になる』と力強く話してくれたことを思い出します。

末筆になりましたが、高館先生はじめ、唐丹希望基金のみなさまのご多幸を心よりお祈りいたします。

令和2年7月1日

藤 館 茂